



只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>

新年明けましておめでとうございます。本年も只見町ブナセンターをどうぞよろしく
お願い申し上げます。新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に対し、只見町ブナセン
ターでは日々の館内消毒やお客様への手指消毒のお願いなど、感染症対策を徹底中です。
ご不便をおかけしますが、ご協力のほどお願い申し上げます。最新の開館情報について
はホームページをご確認ください。

===== 開 催 中 =====

【企画展アーカイブ】

只見の天然資源とその利用 ～冬の暮らしと手仕事編～

本企画展は、2014年に開催した企画展「只見の天然資源とその利用」の中から“冬の暮らしと手仕事”に焦点を絞って再編したものです。今回の企画展では只見町に特徴的な豪雪の冬に着目し、只見の冬の暮らしを支える天然資源とその利用について紹介しています。

只見は日本有数の豪雪地です。只見の人々は長い冬を乗り越えるために、天然資源を活かして様々な準備をします。冬の暖を取るためにブナやナラなどの薪や炭を蓄え、食料を確保するために山菜・キノコ・木の実・農産物などの保存処理を行います。積雪がもたらす地理的・社会的条件を背景に、冬の気候を積極的に活かした独自の文化も発達しました。

また、冬は農閑期に当たりますが、身近な植物を材料として生活を支える様々な道具を作る手仕事のための期間でもありました。現在はこうした手仕事による道具の大部分は工業製品に置き換わっています。それでもなお、物作りに携わる人々は伝統的な技法



を学び、継承しながらも、創意工夫を凝らして新素材の導入や新しい技術を生み出しています。

豪雪は地域社会の発展の障害とも捉えられますが、豊かな天然資源を拠り所とした雪国・只見の独自の生活文化を育む土壌でもありました。本企画展で紹介する只見の天然資源と、その利用に伴う冬の生活文化を通して、私たちのこれからの暮らしを考える機会としていただければ幸いです。

■会 期：2020年12月19日（土）～2021年3月29日（月）

■会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

=====**活 動 報 告**=====

【自然観察会】

余名沢の多様な森を歩く！ 2020年10月31日（土）

自然観察会「余名沢の多様な森を歩く！」では、スギ人工林、コナラ・アカマツ林、林齢の異なるブナ二次林などの成立の由来を学んでいただくことを目的に、観察地を歩きました。

森の入口付近に広がっているのは植林されたスギの人工林です。何度かの間伐を経て、すでに建築用の柱材に使える太さに育っています。

少し歩くとコナラなどの落葉広葉樹で構成された二次林が広がります。林内は明るく、多様な低木も見られます。かつては薪炭林として利用されていたと考えられます。現在ではそうした利用もなくなり、放置された状況ですが、樹木は成長を続けています。

乾燥に強く、栄養の乏しい土地でも育つアカマツは、尾根の上で見られます。只見では痩せた尾根の上はキタゴヨウが生育しており、アカマツが育つ尾根は多くないと考えられます。アカマツは、薪として利用すると火力が強く、^{ようぎょう}窯業で重宝されます。

さらに奥に進むと、かつて薪炭林として利用されて



▲スギの人工林



▲落葉広葉樹で構成された二次林



▲アカマツ林

いたブナ林が現れます。隣接する混交林とは全く様相が異なり、高木のほとんどはブナです。ブナ林と混交林は、かつて別々の所有者が、異なる方法で林を伐採し、薪炭利用を行っていたために成立した林であると考えられます。



▲ブナ二次林

ブナ林を観察しつつ、只見の森林資源をこれからどう管理し、利活用していくか、その可能性についてブナセンター館長が解説しました。参加者の関心も高く、森林と人との関係について沢山のご質問もいただきました。

【只見町自然公認ガイド更新講習（兼）ブナセンター講座】

大型哺乳類の生態 2020年12月13日（日）

講師に只見ユネスコエコパーク支援委員会委員の三浦慎悟氏（早稲田大学名誉教授）をお招きし、只見町公認自然ガイド更新講習（兼）ブナセンター講座を実施しました。新型コロナウイルス感染対策のため、会場の只見振興センターには公認自然ガイドの方のみご臨席いただき、一般の方にはオンラインにてライブ配信という形をとりました。



▲会場の様子

講演の主題はツキノワグマの生態と保全でした。ツキノワグマはロシア東部からアジア、中東に広く分布しますが、日本では既に絶滅した地域も多く、保護が求められています。しかし近年、人との軋轢や事故によって駆除数が激増しており、保護・保全との両立は大きな課題となっています。その解決策として、クマの出没予測と個体数推定の考え方や方法が解説されました。前年にくらべてブナ科堅果の実りが悪い年は秋のクマ捕獲数が増えることから、春のブナの開花状況から秋のクマの出没を予測し警報を出すことで事故の回避を図ります。また、過剰な駆除を防ぐためマーキング（標識法）や数式モデルを用いた個体数の推定が必要だと考えられます。

只見町では身近でありながら、あまり知られていないツキノワグマの生態について知るよい機会となりました。なお、本講座を録画した動画は、ブナセンターYouTubeチャンネルで見逃し配信する他、DVDを貸し出す予定です。準備が整いましたらブナセンターHPに情報を掲載いたします。

=====**お 知 ら せ**=====

【動画紹介】

<ネット企画展>

ただみ・ブナと川のミュージアムで開催された企画展をトピックでシリーズ紹介。企画展「(改訂版) 只見の野生動物とその生態」および企画展アーカイブ「只見の天然資源とその利用～冬の暮らしと手仕事編～」を紹介する動画を配信しています。以下のQRコードよりご覧いただけますと幸いです。



「只見の野生動物とその生態」
予報



「只見の天然資源とその利用
～冬の暮らしと手仕事編～」予報



只見町ブナセンター
YouTube チャンネル

【刊行物】

<只見町の川地図(改訂版)>

この度、好評をいただいております「只見の川地図」について、新たな聞き取り調査などに基づき改訂版を刊行いたしました。川の名前は、人里から奥山まで満遍なく存在する只見の先人たちが残した軌跡で、その数は800近くに上ります。かつての住民と只見の河川・沢との密接な関係の一端を伺い知ることができるイチオシの商品です。価格は500円(税込)。



=====

<編集後記>大雪などで仕方がないとはいえ、この冬は思った以上に来館者が少なく、通年営業している私たち博物館スタッフとしては寂しい限りです。館内には調べものや勉強にぴったりの暖かな休憩室もございますので、ぜひお気軽に足をお運びください。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時(最終受付は午後4時まで)

休館日：火曜日(祝祭日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日～1月3日)

入館料：高校生以上310円 小・中学生210円 未就学児無料(20人以上は団体割引)

